パナソニック システム

設備音響の新シリ

東京五輪などへの

パナソニック システムネットワークスは、ホールやスポーツ施設向け設備音響製品「RAMSAオーディトリアム」を発表。デジタルミキサーとアンプ、スピーカーの計12機種を9月に発売する。

10日には記者発表を開

音で貢献したい」とあいさつした。

製品コンセプトは企画を担当する直田孝幸氏が説明。第3世代として「常設を意識して設計。設置、操作性などあらゆる角度から検討した。原音に忠実な音づくり、Dante を使った音声伝送の高品位化も重視した」と話した。

ch。ミキサーはリプレイス需要が高く入出力数にこだわったという。

デジタルアンプは、新開発のD級増幅回路と高効率スイッチング電源により電力損失を低減。計2000ワット以上のハイパワーを実現した。過電流保護回路機能により、過大入力時にも音を止めることがない。

ールやイベントPAに適した木製ボックス型。

2017年度には、ステージボックスやシグナルプロセッサー、大型施設向けのラインアレイスピーカーを発売する。

ラインアレイスピーカーは、中高音に同軸タイプのドライバーユニットを複数搭載。高音でも位相が乱れない結合部とし、

イナーのゲイリー・ハーデスティ氏は「ラインアレイは観客に対する音楽の窓。スタジオモニターのような高い音質で大空間をカバーすることと、高能率、小型化を目指した」と説明した。

発表会では、CASIOPEA 3rdによるミニライブも開催。製品の実力を披露した。

エーディテクノ

SDI／HDMI変換機

簡易測定機能を拡充

X_NEO1_PLUS

エーディテクノは、6月17日、デジタルフォーキャスト社製の簡易アナライザー機能搭載SDI／HDMIコンバーター「X_NEO1_PLUS」を発売した。市場想定価格は約12万円（税別）。「X_NEO1」の後継品として機能を追加した。

SD／HD／3G-SDIとHDMIの入出力端子を搭載し、入力信号を相互にアップ／ダウン／クロスコンバートする。5型タッチ液晶には入力映像のプレビューや信号情報を表示する。

測定機能には、ジッターの状態を確認できるアイパターン表示および、入力信号を基にケーブル長と信号品質を簡易表示する入力SDIケーブル長測定機能を追加。これらにより送出伝送時の信号品質を確認できる。

SMPTEカラーバーなどテストパターン出力が可能。ソースがない環境でもシンク機器に信号出力できる。専用バッテリープレートで駆動することも可能。

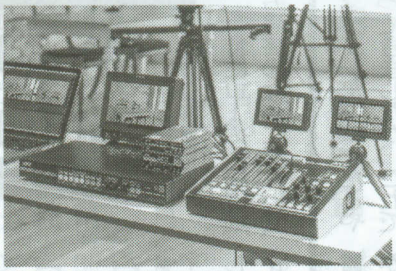
ATVが発表

業務用ビデオ製品

ライブ中継スイッチャーなど

ATVは、業務用ビデオ製品2種類を発売した。インターネット中継を想定した4ch HDライブAVミキサー「A-PRO-4」は、SDIとHDMI各2入力を装備。うち1系統はスケーラーを搭載しPCなどを接続可能。出力はSDIとHDMI各1系統。外部音源も入力できる。映像入力は最大2048×1080／60p、10ビット4：4：4の高画質処理。45万円（すべて税別）。

「MS-8」は、A-PRO-4と同じスケーラーを内蔵したシンプルな8chスイッチャー。多様な映像を素早く出力したいプレゼンテーションなどに向く。38万円。



利用イメージ

ATVは2013年に梯郁太郎氏が設立。15年秋から、電子楽器や映像製品のメーカーとして本格展開している。

コムワークス

4K編集機を一新

CPUとストレージを高速化

コムワークスは、4K／60pのネイティブ編集に対応するハイエンドノンリニア編集機「Com station X」から、仕様を一新した「V4シリーズ」を発売した。

CPUはインテルのサーバー用「Xeon E5-2600 v4ファミリー」を採用。従来に比べ1ワットあたり約25%性能を向上した。作業用ストレージには、PCIエクスプレスに直結するSSDを採用。最大240O メガバイト／秒でさらなる利便性を提供する。保存用ストレージも、3テラバイトHDD3台（RAID5、RAID0選択可）に増加した。